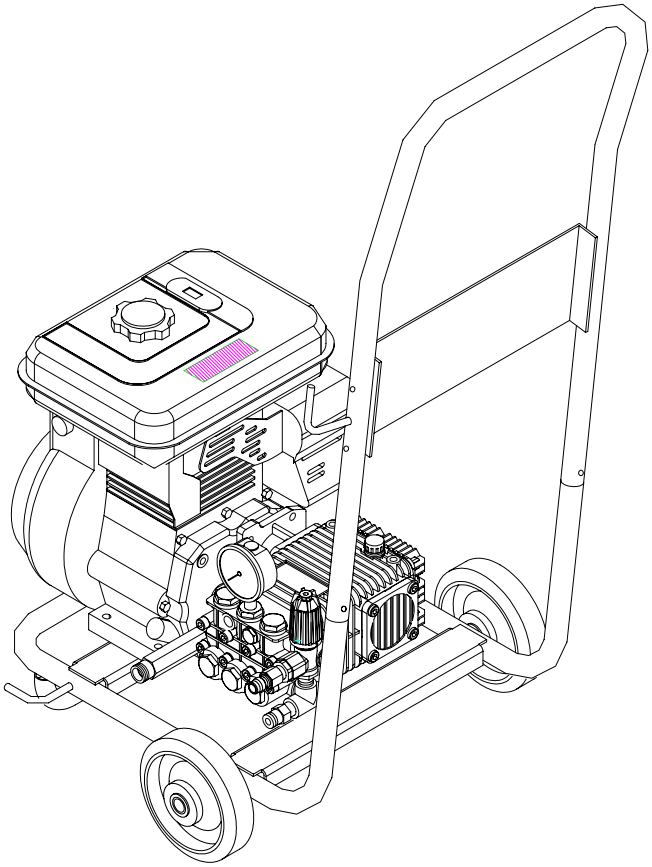
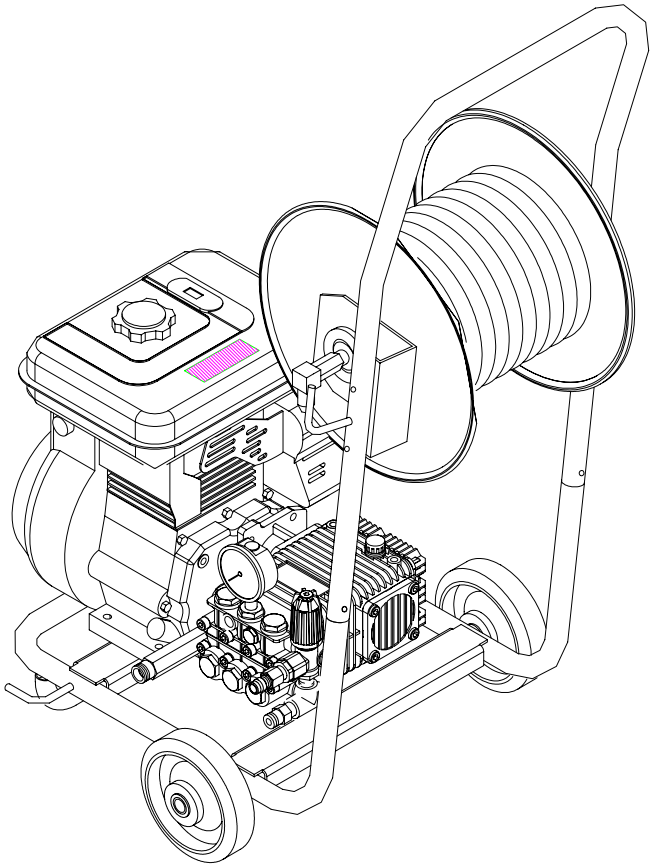
Asada
環境を守る親切ツール

高圧洗浄機 16／150G･GP
高圧洗浄機 16／200G･GP
高圧洗浄機 21／90G･GP

取 扱 説 明 書





〔ご使用前には必ず本書をお読みください。〕

IM0601

安全にご使用いただくために

このたびは、高圧洗浄機１６／１５０G・GP、１６／２００G・G、２１／９０G・GPをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

- ●この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- ●ご使用前に必ず本書を最後までよく読み、確実に理解してください。
- ●適切な取り扱いで本機の性能を充分発揮させ、安全な作業をしてください。
- ●本書は、お使いになる方がいつでも取り出せるところへ保管してください。
- ●本機を使用用途以外の目的で使用しないでください。
  - ・ご注文の商品の仕様と違いはないか。
  - ・輸送中の事故などで破損、変形はしていないか。
  - ・付属品などに不足はないか。

万一不具合が発見された場合は、至急お買い上げの販売店、または当社支店、営業所にお申し付けください。

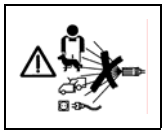
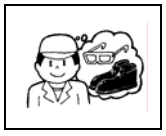
（本書記載内容は、改良のため予告なしに変更することがあります）

警告表示の分類

本書および本機に使用している警告表示は、次の３つのレベルに分類されます。

⚠危険	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性が高い危険な状態。
⚠警告	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態。
⚠注意	本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状態。または、本機に損傷をもたらす状態。

記号

	爆発		火災		火傷		火気厳禁
	高圧水		噴射		ガス注意		保護具着用
	分解禁止		劇物		取扱説明書		その他

目次

安全にご使用いただくために ―――――――――――――――― P．１
警告表示の分類 ―――――――――――――――――――― P．１
記号 ―――――――――――――――――――――――― P．１
安全上のご注意 ―――――――――――――――――――― P．３
１．製品の構成 ―――――――――――――――――――― P．７
　１）各部の名称（高圧洗浄機□□／□□□G） ――― P．７
　２）各部の名称（高圧洗浄機□□／□□□GP） ――― P．８
　３）仕様（高圧洗浄機□□／□□□G） ――――― P．９
　４）標準付属品（高圧洗浄機□□／□□□G） ――― P．９
　５）仕様（高圧洗浄機□□／□□□GP） ――――― P．９
　６）標準付属品（高圧洗浄機□□／□□□GP） ――― P．１０
　７）別販売品 ―――――――――――――――― P．１０
２．使用方法 ―――――――――――――――――――― P．１１
　１）洗浄作業前の準備 ―――――――――――― P．１１
　　１-１）使用環境 ―――――――――――― P．１１
　　１-２）設置 ―――――――――――――― P．１１
　　１-３）燃料の補給 ―――――――――― P．１２
　　１-４）ホース類の接続 ―――――――― P．１３
　２）運転 ―――――――――――――――― P．１５
　　２-１）初めて使用する場合 ―――――― P．１５
　　２-２）始動方法 ―――――――――― P．１５
　　２-３）洗浄作業の方法 ―――――――― P．１７
　　２-４）作業の終了 ―――――――――― P．１８
３．保守・点検 ―――――――――――――――――― P．２０
　１）エンジン関係の点検 ―――――――――― P．２０
　２）ポンプオイルの交換 ―――――――――― P．２１
　３）ラインストレーナおよびストレーナの点検 ――― P．２１
　４）デュアルガンおよび洗管ホースのノズル清掃 ―― P．２２
４．修理を依頼される前に ―――――――――――― P．２２

安全上のご注意

■ここでは、本機を使用するにあたり注意していただきたい一般的な注意事項を示します。
■作業要所での詳しい注意事項は、この後の各章に記載しています。

⚠危険

爆発

◆燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから、換気の良い場所で行ってください。

◆可燃性液体（シンナーなど）やガスのあるところで使用しないでください。

☆点火プラグなどのスパークが爆発や火災の原因になります。

火気厳禁

◆燃料の補給中、燃料タンクの近くではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

☆誤って引火しますと、爆発、火災の原因になります。

◆燃料をこぼさないように注意し、規定レベル以下に燃料を補給し、燃料キャップを確実に締めてください。

☆燃料キャップが締まっていないと本機が転倒したときに燃料がこぼれて危険です。

☆燃料がこぼれたときは、すぐに布きれなどで拭き取ってください。

火災

◆本機を転倒させないよう、注意して使用してください。特に本機を移動させる際、注意してください。

◆高圧ホースを持って強く引っ張らないで下さい。本機が転倒する原因になります。

ガス注意

◆酸素欠乏症や排気ガス中毒を防止するため、換気の良い場所に設置してください。

☆換気の悪い場所で使用すると、酸欠で窒息する恐れがあります。

☆絶対に排気ガスを吸わないようにしてください。

☆やむを得ず屋内で使用する場合には、充分な換気が行われていることを必ず確認してください。

分解禁止

◆修理技術者以外は絶対に分解しないでください。

◆改造は絶対に行わないでください。

☆異常な動作の原因となり、ケガや故障の原因となります。

劇物

◆薬剤（薬品）を混合して使用する場合は、ガソリン・シンナーなどの有機溶剤や、強酸性溶剤・強アルカリ性溶剤の他、劇物・毒物などは絶対に使用しないでください。

☆思わぬ事故を招く原因になります。特殊な薬剤（薬品）などを使用される場合には、必ず販売店または弊社に問い合わせのうえ安全を確認してから使用してください。

⚠ 危険

火傷

◆運転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどが大変高温になっています。使用後の、部品交換・清掃・点検時は必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから行ってください。

☆火傷をする恐れがありますので絶対に触れないでください。

噴射

◆デュアルガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆誤って噴射すると大変危険です。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

◆デュアルガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください。

☆不意に電源が入ると高圧水が噴射され危険です。

高圧水

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、充分注意して行ってください。

☆対象物が粉砕、破壊されて危険です。

⚠ 警告

取扱説明書

◆この取扱説明書を事前によく読み、正しい取り扱い方法を充分にご理解のうえ、操作してください。

◆本機を操作する前に、必ず本取扱説明書P．11「使用方法」の作業行ってください。

◆間違いなく取り扱うため、各部の操作に慣れ素早い停止方法を習得してください。

◆エンジンに関する取り扱い方法は、付属のエンジンの取扱説明書にしたがってください。

◆本書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別販売品以外は使用しないでください。

☆事故や故障の原因となります。

◆本機を落としたりぶつけた場合は、破損・亀裂・変形などがないか点検してください。

☆破損・亀裂・変形などがある状態で作業を行うと、けがや事故の原因となります。

⚠ 警告

その他

◆関係者以外は、作業場所に近けないでください。特にお子様には、充分注意し絶対に触らせないでください。

◆疲労・飲酒・薬物などの影響で作業に集中できないときは、操作しないでください。

◆本機を操作しないときは、乾燥した場所で子供の手が届かない、または鍵のかかる場所に保管してください。

◆結果の予測ができない、また確信の持てない取り扱いはしないでください。

◆本機を使用目的以外の用途には使用しないでください。

高圧水

◆噴射を停止してエンジンを切っても、ポンプ内や高圧ホースには残留した高圧水がありますので、一度トリガーを引いて内部の圧力を逃がしてください。

☆不意に、トリガーが引かれると高圧水が噴射して危険です。

◆エンジンの排気口をふさいだり、周辺に物を置かないようにしてください。

☆火災の原因になります。

火災

◆デュアルガンの取り扱いには充分注意し、不意の噴射による事故防止に心がけてください。

◆本機から離れるときや、保守・点検のときにはエンジンを停止し、スイッチをOFFにしてください。

☆思わぬ事故の原因になります。

◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

保護具

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆作業場所は整理･整頓し、いつもきれいな状態で充分な明るさを保ってください。

☆作業環境が悪いと事故の原因になります。

⚠ 注意

取扱
説明書

◆水道に直結して使用する場合は、地方自治体の水道法の法的規制を受ける場合があります。

☆詳細については、所轄の自治体にお尋ねください。

◆泥水などは使用しないで、必ず清水を使用するようにしてください。

☆ポンプの故障やストレーナの詰まりの原因となります。

◆冬季など0℃以下になる場所では、必ず水抜きを行ってください。（P．18「作業の終了」を参照）また、0℃以上の屋内に保管するようにしてください。）

☆ポンプが凍結して損傷する恐れがあります。

その他

◆本書のP．20「保守・点検」に従い、各部の保守、点検を行ってください。

◆本機の異常（異臭・振動・異常音など）に気づいたときは、ただちに運転を停止し、本書のP．22「修理を依頼される前に」を参照してください。また、むやみに分解せず点検や修理を依頼してください。

☆修理はお買い上げの販売店または、弊社支店、営業所へお申しつけください。

◆運転中、ポンプより少量の水が漏れることがありますが、1 分間に5滴程度までの水漏れは故障ではありません。

☆それ以上の水漏れが発生している場合には、販売店または、弊社へ連絡してください。

◆圧力の調整は、必ず所定の範囲内で行うようにしてください。

☆上げ過ぎや下げ過ぎは故障の原因になります。

◆通常、エンジン始動後10秒間程度で吸水します。それ以上経過しても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。（P．22「修理を依頼される前に」を参照）

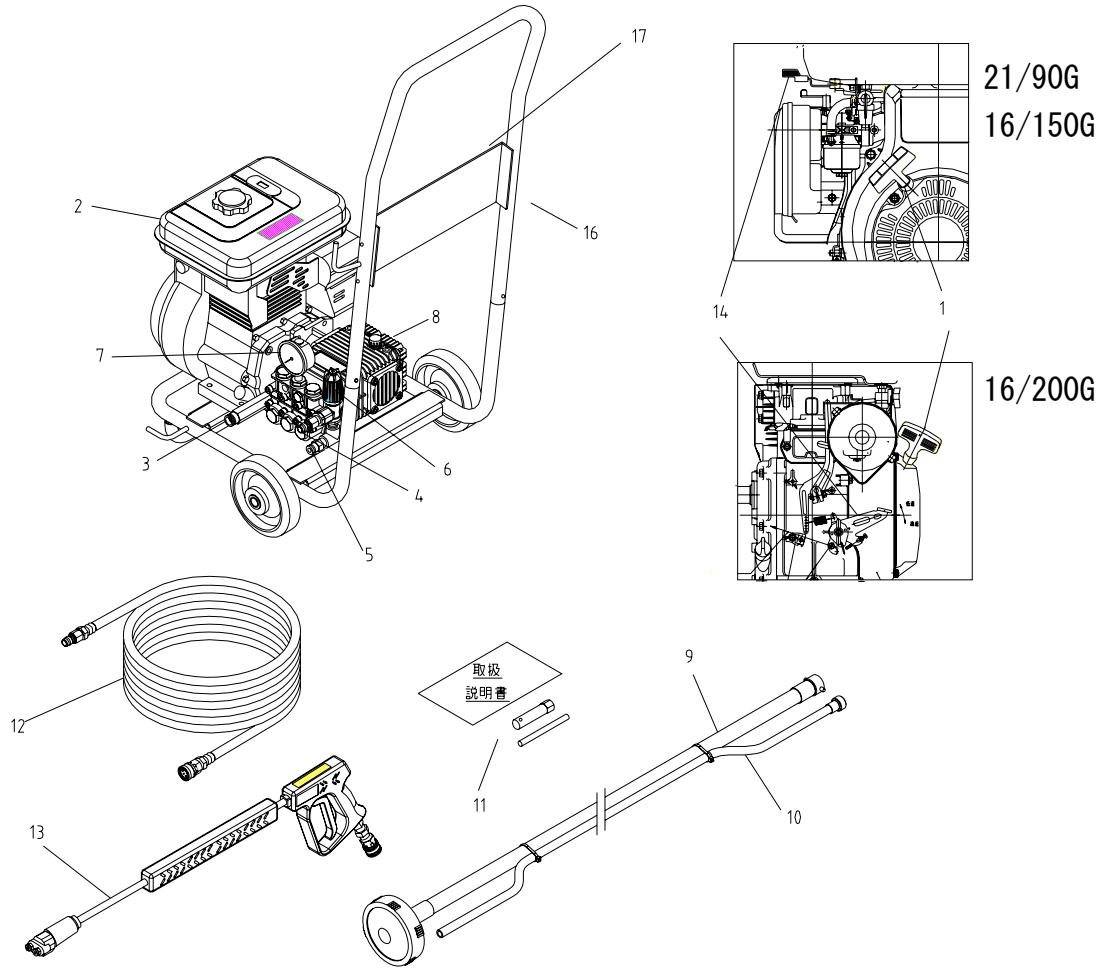
◆作業前には、必ずデュアルガン・高圧ホース・洗管ホースなど各付属品を点検してください。

☆これらの付属品に損傷があった場合、高圧水が噴出します。特に洗管ホースに損傷があった場合作業中に先端部が破損し、パイプ内に部品が残る場合があります。

1．製品の構成

1）各部の名称（高圧洗浄機□□／□□□G）

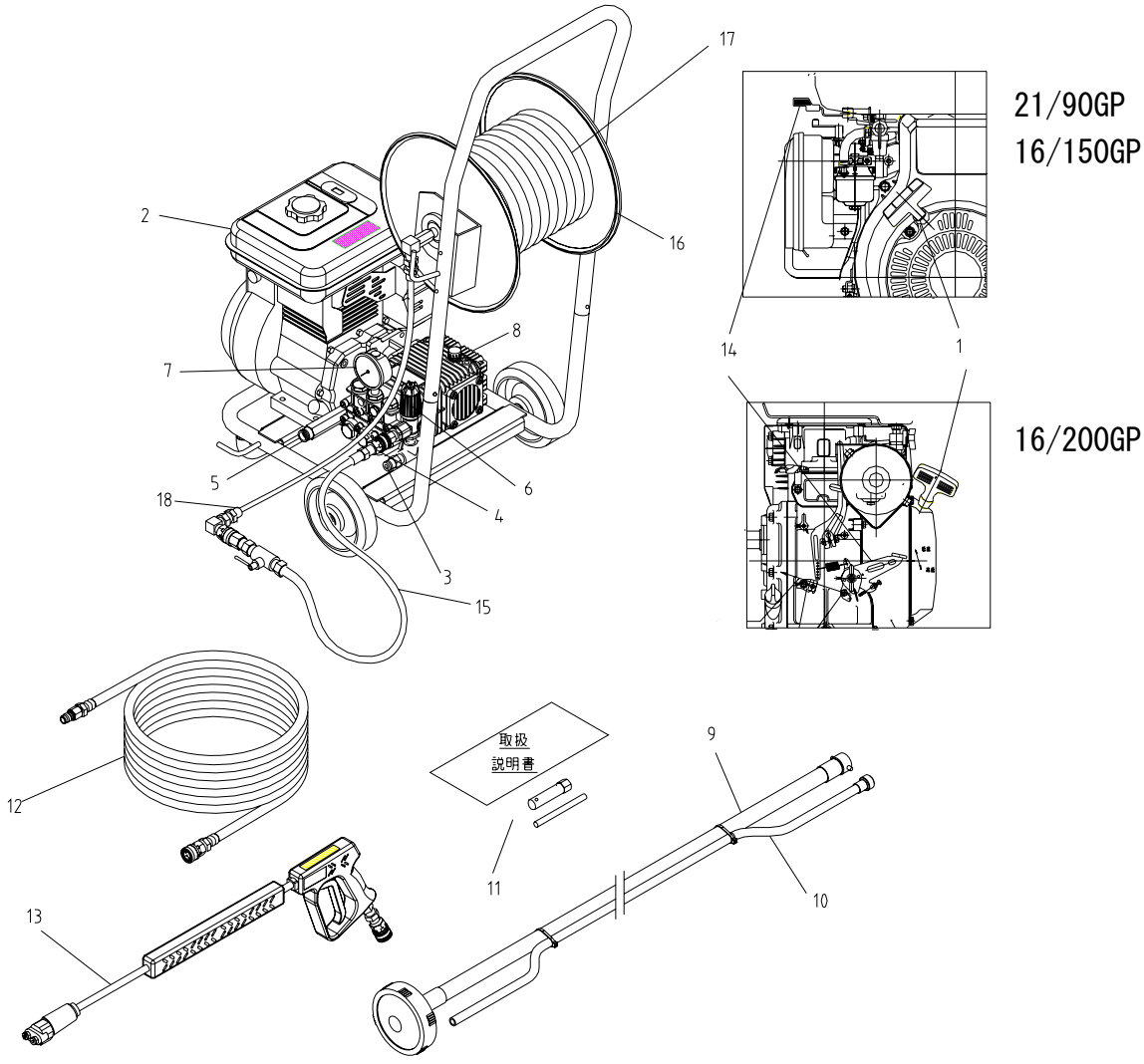
□本機には、警告ラベルが貼付してあります。安全確保のための説明が書かれていますので綺麗に保ち、はがれたり見づらくなった場合には弊社へ請求してください。そして、必ず同じ場所に貼付してください。



1．始動グリップ
2．エンジン
3．吸水口
4．吐出口
5．余水口
6．圧力調整ノブ
7．圧力計
8．ポンプ
9．給水ホース
10．余水ホース
11．エンジン用工具
12．高圧ホース
13．デュアルガン
14．スロットル

2）各部の名称（高圧洗浄機□□／□□□GP）

□本機には、警告ラベルが貼付してあります。安全確保のための説明が書かれていますので綺麗に保ち、はがれたり見づらくなった場合には弊社へ請求してください。そして、必ず同じ場所に貼付してください。



1．始動グリップ	9．吸水ホース	17．洗管ホース3/8
2．エンジン	10．余水ホース	18．中間ホース
3．余水口	11．エンジン用工具	
4．吐出口	12．高圧ホース	
5．吸水口	13．デュアルガン	
6．圧力調整ノブ	14．スロットル	
7．圧力計	15．洗管用コックキット	
8．ポンプ	16．ホースリール搭載用	

3）仕様（高圧洗浄機□□／□□□G）

製品名		高圧洗浄機 16/150G	高圧洗浄機 16/200G	高圧洗浄機 21/90G
コード No.		HD1615G	HD1620G	HD2109G
エンジン	型式	空冷 4 サイクルガソリン		
	出力	4.7kW	5.1kW	4.7kW
	排気量	251cc	291cc	251cc
	始動方式	リコイルスタータ		
	点火方式	トランジスタ式マグネット		
	回転数	1800min^{-1}		
ポンプ	吐出水量	16L/min		21L/min
	圧力	14.7MPa	19.6MPa	8.8MPa
	給水可能温度	40℃以下		
	使用オイル	4 サイクルエンジンオイル　SAE30 番，10W-30		
	給水方式	自吸式・水道直結式		
質量		47.0kg	57.0kg	47.0kg
大きさ		L757×W532×H796mm	L757×W532×H796mm	L757×W532×H796mm

4）標準付属品（高圧洗浄機□□／□□□G）

高圧洗浄機 16/150G、16/200G	
コード No.	部品名
—	本体
HD03003	高圧ホース 3/8　20m
HD213	吸水ホース組 1/2　3m
HD214	余水ホース 3/8　3m
HD04002	デュアルガン(16/150 のみ)
HD06002	デュアルガン(16/200 のみ)
ー	高圧洗浄機取扱説明書
ー	エンジン取扱説明書
ー	エンジン工具セット

高圧洗浄機 21/90G	
コード No.	部品名
—	本体
HD03003	高圧ホース 3/8　20m
HD239	吸水ホース組 3/4　3m
HD214	余水ホース 3/8　3m
HD08002	デュアルガン
—	高圧洗浄機取扱説明書
ー	エンジン取扱説明書
ー	エンジン工具セット

5）仕様（高圧洗浄機□□／□□□GP）

製品名	高圧洗浄機 16/150GP	高圧洗浄機 16/200GP	高圧洗浄機 21/90GP
コード No.	HD1615P1	HD1620P1	HD2109P
質量	60.0kg	70.0kg	60.0kg
大きさ	L757×W532×H796mm	L757×W532×H796mm	L757×W532×H796mm

＊ｴｼﾞｿ他の仕様については、高圧洗浄機□□/□□□Gと同じです

6）標準付属品（高圧洗浄機□□／□□□GP）

高圧洗浄機 16/150GP、16/200GP	
コード No.	部品名
—	本体
HD03003	高圧ホース 3/8　20m
HD213	吸水ホース 1/2　3m
HD214	余水ホース 3/8　3m
HD04002	デュアルガン (16/150GP のみ)
HD06002	デュアルガン (16/200GP のみ)
HD04023	ホースリール搭載用
HD04014	洗管ホース組 3/8　20m (16/150GP のみ)
HD06013	洗管ホース組 3/8　20m (16/200GP のみ)
※HD03021	洗管用コックキット
—	高圧洗浄機取扱説明書
—	エンジン取扱説明書
—	エンジン工具セット

※洗管用コックキットは洗管ホース組に含まれます。

高圧洗浄機 21/90GP	
コード No.	部品名
—	本体
HD03003	高圧ホース 3/8　20m
HD239	吸水ホース 3/4　3m
HD214	余水ホース 3/8　3m
HD08002	デュアルガン
HD04023	ホースリール搭載用
HD08014	洗管ホース組 3/8　20m
※HD03021	洗管用コックキット
—	高圧洗浄機取扱説明書
—	エンジン取扱説明書
—	エンジン工具セット

※洗管用コックキットは洗管ホース組に含まれます。

7）別販売品

部品名	高圧洗浄機 16/150G、GP	高圧洗浄機 16/200G、GP	高圧洗浄機 21/90G、GP
ホースリール別置用	HD03020		
洗管ホース 3/8　10m	HD04013	HD06012	HD08013
洗管ホース 3/8　20m	HD04014	HD06013	HD08014
洗管ホース 3/8　30m	HD04015	HD06014	HD08015
洗管ホース 3/8　40m	HD04016	HD06015	HD08016
洗管ホース 3/8　50m	HD04017	HD06016	HD08017
洗管ホース 1/4　10m	HD04006	HD06006	HD08007
洗管ホース 1/4　20m	HD04007	HD06007	HD08008
SUS 洗管ホース 1/4　10m	HD04008	HD06008	HD08009
SUS 洗管ホース 1/4　20m	HD04009	HD06009	HD08010
特別 SUS 洗管ホース 1/4　10m	HD04010	HD06010	HD08011
特別 SUS 洗管ホース 1/4　20m	HD04011	HD06011	HD08012
サンドブラストキット A	HD03010		—
サンドブラストキット B	—	—	HD08004
バリアブルガン	HD04001	HD06001	HD08001
デュアルガン	HD04002	HD06002	HD08002
ハンドガン	HD04004	HD06004	HD08005
残水処理キット	HD04005	HD06005	HD08006
水圧テストゲージ	HD03022		

2．使用方法

1）洗浄作業前の準備

1-1）使用環境

□次の使用環境を充分考慮して、『設置』・『燃料の補給』・『ホース類の接続』を行なってください。

★直射日光があたる場所、雨中、内部に水が入りやすい場所では使用しないでください。

★本機は排気ガスを出します。密閉された部屋では使用しないでください。また、やむを得ず屋内で使用する場合には吸排気口（吸排気ファン）を取り付けてください。

★ガソリンなどの可燃物が存在する付近では使用しないでください。

★本機を設置して使用する場合には保守・点検が容易に行える場所に設置してください。

★使用する燃料は、新鮮な自動車用レギュラーガソリン以外は絶対に使用しないでください。

★各ホース類や接続部に異常がないことを確認してから運転するようにしてください。

1-2）設置

⚠ 注意

その他

◆換気が不充分な場所、オイルや燃料漏れのある場所、引火性ガスがある場所などには、絶対に設置しないでください。

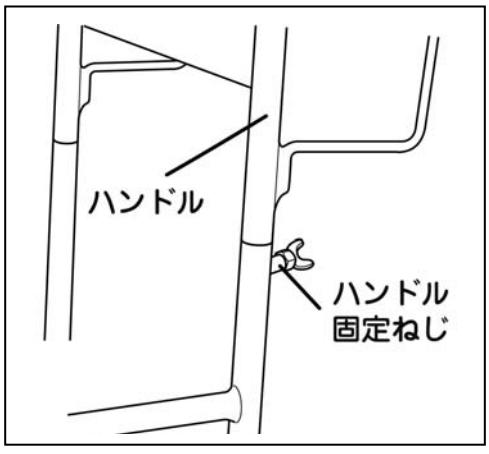
◆本機は重量物です。フォークリフトなどで運搬するようにし、人力での上げ下げや吊金具での運搬は行わないでください。

□設置する床が丈夫で水平な場所を選定してください。

□キャスタに回り止めなどの処置を実施し、不意の移動がないようにしてください。

①台車のハンドル取り付け部にハンドルを差し込んでください。

②ハンドル固定ねじで確実に固定してください。固定が緩いと、エンジンの振動でハンドル固定ねじがはずれます。



1-3）燃料の補給

A. ガソリンの補給

⚠ 注意

その他 ⚠

◆ガソリン補給後は、タンクキャップを確実に締めてください。

◆入れ過ぎは危険ですので規定レベルよりやや控えめに入れてください。

□本機のガソリンは、出荷時給油されていません。初めて使用する場合にはエンジンの取扱説明書にしたがって、ガソリンを給油してください。

★燃料は新鮮な自動車用レギュラーガソリンを使用してください。

B. エンジンオイルの補給

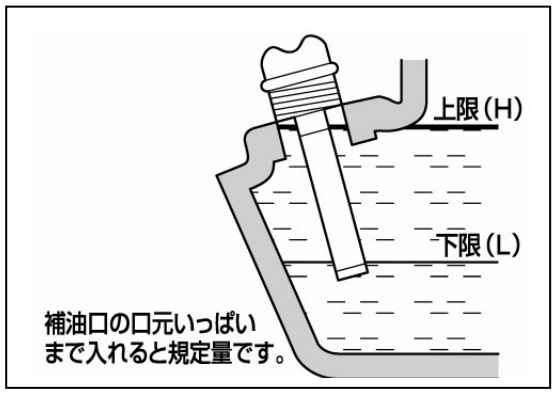
□本機のエンジンオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には念のためエンジンの取扱説明書にしたがって、エンジンオイル量の確認（①）を行ってください。

★エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンの取扱説明書にしたがって補給してください。

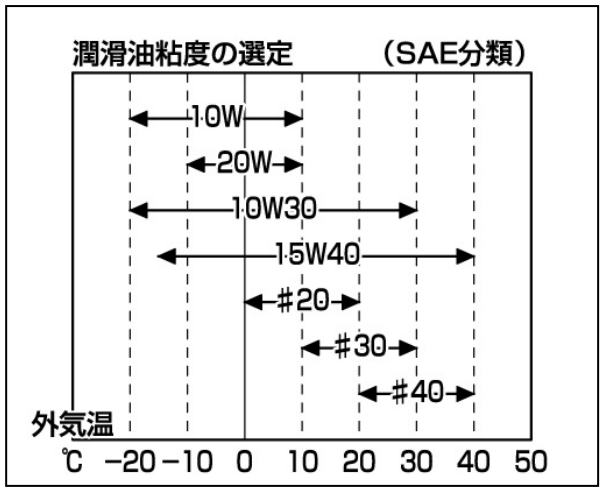
★エンジンオイルが汚れているときは、エンジンの取扱説明書にしたがって交換してください。

□出荷時に給油されているエンジンオイルは SAE10W-30 クラス品です。このエンジンオイルは、低温時(気温が−20℃)から高温時(気温が 30℃)まで広範囲で使用できますが、特に低温・高温地域でご使用の場合には、下表②を参考にエンジンオイルを選定してください。

①



②



C．ポンプオイル

□本機のポンプオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には、念のためポンプ背面にあるサイトグラス（①）でポンプオイルが給油されていることを確認してください。

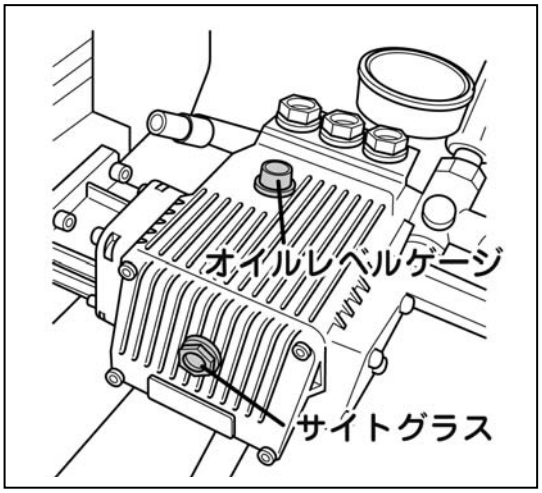
★オイルレベルゲージ（①）にて、ポンプオイルが不足しているようであれば補充してください。

★ポンプオイルが汚れているときは交換してください。

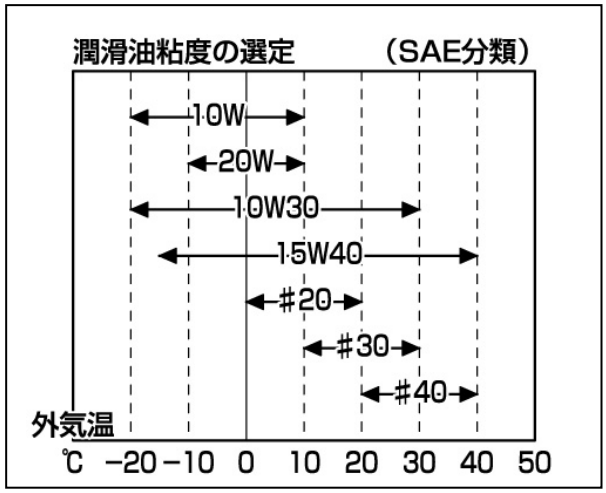
★ポンプオイルは自動車用エンジンオイルを使用し、適量は約 0.4Ｌです。

★出荷時に給油されているポンプオイルは、SAE10W-30 クラス品です。補充される場合には使用しているエンジンオイルと同じもの（②）を使用してください。

①



②



1-4）ホース類の接続

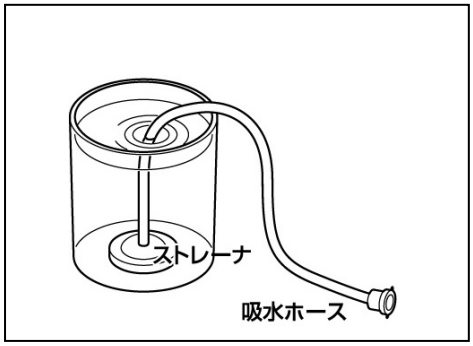
A. 吸水ホース他の接続

①吸水ホースを本体の吸水口へ確実に接続してください。

②吸水口内にラインストレーナが挿入されていることと、吸水ホース金具にパッキンが入っていることを確認してください。

★パッキンが入っていないと吸水しません。

③ストレーナは、完全にタンク内へ沈めて空気を吸わないようにしてください。浮いていると空気を吸って充分な性能が発揮されません。



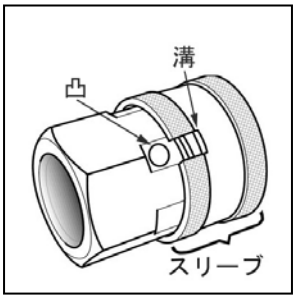
⚠ 注意

◆泥水などは使用しないで、必ず清水を使用するようにしてください。

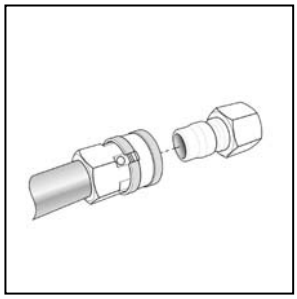
☆ポンプの故障やストレーナの詰まりの原因となります。

B. 高圧ホース・デュアルガンの接続

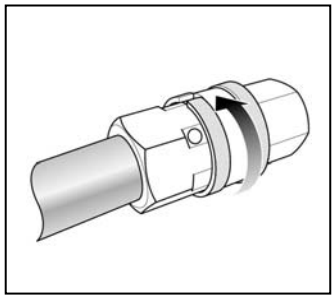
①高圧ホースのメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、ポンプ吐出口に挿入し、スリーブを戻します。
②スリーブを回し、カプラをロックします。
③ガン根元のメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、高圧ホースに挿入し、スリーブを戻します。
④スリーブを回し、カプラをロックします。



①



②



⚠ 危険

高圧水

◆接続は確実に実施してください。
☆接続が不充分である場合、高圧水が噴出して危険です。

◆ロックは必ず実施してください。
☆不意に接続がはずれた場合、けがをする恐れがあります。

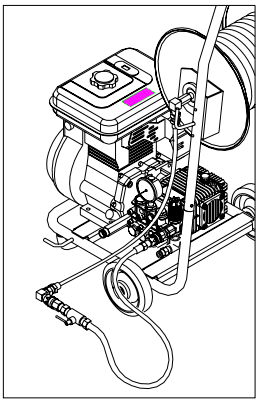
◆接続時に、各金具に取り付けられているパッキン類に損傷がないことを確認してください。
☆パッキン類に損傷がある場合、能力が発揮されないだけでなく、高圧水が噴出して危険です。

その他

◆高圧ホース、デュアルガンを接続したまま強く引張らないでください。
☆接続部がゆるんで圧力漏れの原因になります。

C. 洗管ホースの接続（高圧洗浄機□□／□□□ＧＰのみ）

①ホースリールと中間ホースを接続してください。
②中間ホースと洗管用コックキットを接続してください。
③洗管用コックキットと本機の吐出口を接続してください。



2）運転

2-1）初めて使用する場合

□新しいうちは各部がなじんでいませんので、無理な使い方をすると洗浄機の寿命を短くします。運転開始後約２０時間までは慣らし運転期間として次のことを守ってください。

①始動後、約２～３分間はエンジンが温まるまで暖機運転を行ってください。
②慣らし運転期間は、エンジンに無理な負荷がかからないようにし、過負荷運転はさけてください。
③運転開始後約２０時間目のエンジンが暖かいうちにオイル交換を行ってください。
☆オイル交換はエンジンが暖かいうちに行わないと古いオイルが完全に排出されません。
④運転開始後約２０時間目のオイル交換後は５０時間ごとにオイル交換を行ってください。

危険

火傷

◆エンジン停止直後のエンジンオイルは高温になっています。オイル交換の際は充分に注意してください。
☆火傷をする恐れがあります。

2-2）始動方法

①エンジンの始動方法は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。
②この高圧洗浄機には自動エアー抜き装置が装備されていますのでエアー抜き作業は必要ありません。
③高圧洗浄機 16/150GP、16/200GＰおよび高圧洗浄機 21/90GP ではエンジンを始動する場合は、必ず洗管用コックキットのバルブを閉じておいてください。
⑤エンジンが始動したら、余水ホースから水が出ていることを確認して暖機運転（約２～３分間）を行った後、エンジンのスロットルレバーを全開にしてください。そして再度、余水ホースから水が出ていることを確認してください。
⑥噴射を行わずにエンジンを運転し続ける場合は、必ずエンジンのスロットルレバーを低速側に戻して低速回転を保持してください。（必ず吸水し続け、ポンプをドライの状態で運転しないようにしてください）

⚠ 危険

保護具

◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆通常、エンジン始動後10秒程度で吸水します。それ以上経っても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。
（P. 22『修理を依頼される前に』を参照）

その他

◆作業前には、必ずデュアルガン、高圧ホース、洗管ホースなどの各付属品を点検してください。

☆これらの付属品に損傷があった場合、高圧水が噴射されます。特に洗管ホースに損傷があった場合、作業中に先端部が破損し、パイプ内に部品が残る場合があります。

噴射

◆デュアルガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆誤って噴射すると大変危険です。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

高圧水

◆デュアルガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください。

☆トリガーが引かれたままだと、不意に高圧水が噴射される場合があり危険です。

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、充分注意して行ってください。

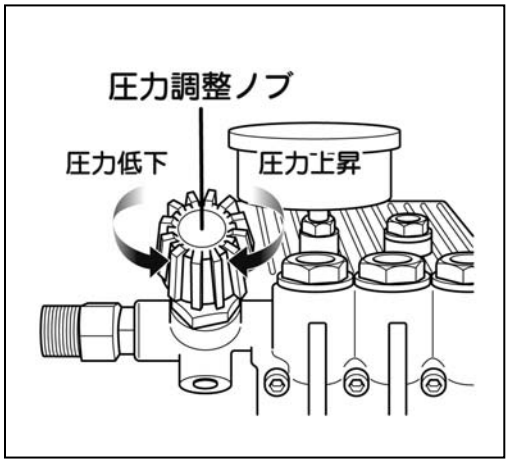
☆対象物が粉砕、破壊され危険です。

◆洗管用コックキットのバルブを開いた状態でエンジンを始動すると急に洗管ノズルから高圧水が噴射し、大変危険です。

2-3）洗浄作業の方法

A. 圧力調整の方法

①圧力の調整は、必ずエンジンを停止させ、ガンのトリガーを一度引いてポンプ内、高圧ホース内の圧力を抜いてから行うようにしてください。
②圧力を上げるには、圧力調整ノブを右回転（時計方向）させ、圧力を下げるには、圧力調整ノブを左回転（反時計方向）にします。
③エンジンのスロットルレバーを低速側に戻すことによっても、吐出水量を減らして圧力を下げることができます。



⚠ 注意

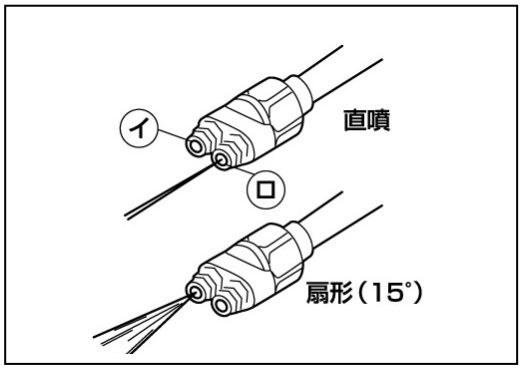
その他

◆圧力は、出荷時に調整して規定圧力になっています。この圧力以上に上げないでください。（P. 9『仕様』参照）

◆圧力調整を行った後は、必ず付属の圧力計で圧力の確認を実施してください。圧力が 1.9MPa～最高圧力（P. 9『仕様』参照）の範囲であることを確認してください。規定外の圧力で運転を行うと洗浄機が故障するばかりでなく、事故につながる恐れがあります。

B. デュアルガンの使用方法

①トリガーを引くと噴射し、トリガーを戻す（放す）と噴射が停止します。
②デュアルガンは直噴射と扇形噴射のどちらかを選ぶことができます。
☆高、低圧の切り替えはできません。
③噴射前に、ガンを右側に傾けて噴射すると“ロ”のノズルから直噴射されます。
④噴射前に、ガンを左側に傾けて噴射すると“イ”のノズルから扇形噴射されます。
☆一度噴射を始めるとトリガーを戻し（放し）て噴射が停止されるまで、そのノズルからの噴射が続きます。
⑤噴射パターンは、作業によって使い分けてください。



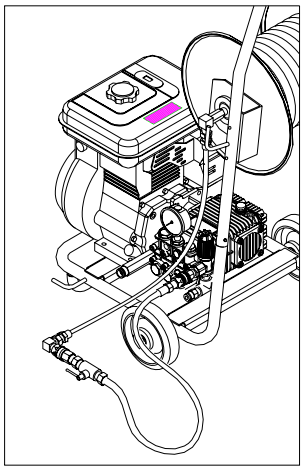
危険

その他

◆デュアルガンのトリガーを針金などで縛って、常にトリガーが引かれた状態にすることは大変危険ですので絶対に行わないでください。

◆トリガーを戻して噴射を停止させた場合には、安全のため必ずストッパーでトリガーをロックしてください。

C．洗管ホースの使用方法（高圧洗浄機□□／□□□ＧＰのみ）



①逆噴射ノズルからの噴射は、洗管用コックキットのバルブ開閉によって行われます。

②洗管用コックキットのバルブを開く（レバーとホースが同じ方向）と噴射が始まり、バルブを閉じる（レバーとホースが直角方向）と噴射が停止します。

③バルブを開く前に、洗管ホースの先端（逆噴射ノズル）を洗浄対象のパイプの中に１ｍ以上挿入します。

④洗管ホースをしっかりと保持して、洗管用コックキットのバルブを開き噴射させます。

⑤洗管ホースを洗浄対象のパイプの中に挿入、前後させて洗浄をおこないます。

注意

その他

◆洗管ホースを引き出すときに、高圧ホースを持って強く引っ張らないで下さい。本機が転倒する原因になります。

◆洗管ホースを引き戻すときに、エルボなどの継手に引っかかることがあります。この場合に無理に引っ張ると先端の逆噴射ノズルが外れたり、ホースが破損する恐れがあります。引っかかった場合には、前進、後退を繰り返してください。

◆洗管ホースは柔らかいホースですので、極力エッジなどのとがった部分へ接触させないようにしてください。

2-4）作業の終了

①タンクから吸水ホースと余水ホースを取り出し、一度トリガーを引きデュアルガン、高圧ホース内の残圧を抜いてください。

②低速状態で３０秒程度空運転を実施し、エンジンスイッチをＯＦＦにして停止させてください。

③エンジンのリコイルスタータのノブを重く感じる位置までゆっくり引き、元の位置まで戻してください。

④ポンプ吐出口から高圧ホース、吸水口から吸水ホース、余水口から余水ホースをはずしてください。

⚠ 危険

高圧水

◆噴射を止めてエンジンスイッチをOFFにした後、必ず一度トリガーを引いてバリアブルガンと高圧ホースの残圧を抜いてください。

☆不意にトリガーが引かれたときに高圧水が噴射され危険です。

◆洗浄作業中はエンジンを停止しないでください。必ずしばらくの間無負荷運転を実施してからエンジンを停止させてください。

☆洗浄作業中にエンジンを停止させると、急激にエンジンの温度が上昇し、寿命が短くなります。

その他

☆排気消音器内で、未燃焼のガソリンに引火して爆発音がでたり、炎が噴出する場合がありますが、異常ではありません。

◆空運転は30秒以上行わないでください。

☆ポンプが破損する恐れがあります。

3．保守・点検

□高圧洗浄機をいつも調子良く使い、長持ちさせるためには日常の手入れが大切になります。点検時間は下表にしたがって励行してください。●印は、技術や特殊工具が必要ですので、お買い上げの販売店や弊社支店、営業所にお問い合わせください。

定期点検表

項目＼運転時間	毎日	２０時間ごと	５０時間ごと	１００時間ごと	２００時間ごと	５００時間ごと	１０００時間ごと
各部ボルトナットの点検・締め付け	○						
ポンプの消耗品交換						●※３	
エンジンオイルの点検・補給	○						
エンジンオイルの交換		○※１	○※２				
ポンプオイルの点検・補給	○						
ポンプオイルの交換			○※１		○※２		
油漏れの点検	○						
エアクリーナの清掃		○　２５時間ごと（ホコリの多い場所では早めに清掃する）					
ラインフィルタの清掃			○				
点火プラグの点検・清掃				○			
気化器の点検・清掃				●			
吸排気弁の隙間調整					●		
※１：　第１回目		※２：　第２回目			※３：　第３回目		

1）エンジン関係の点検

①エンジンオイルの点検・補給は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。

★エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪いオイルを使用するとエンジンの寿命が短くなる恐れがあります。常に良質できれいなオイルを規定量保つように心掛けてください。

②点火プラグやその他の点検・調整・交換はエンジンの取扱説明書にしたがって行い、何か異常がある場合にはお買い上げの販売店や弊社支店、営業所まで連絡をお願いします。

エンジンオイル交換時期	１回目	運転開始２０時間後
	２回目以降	運転開始５０時間毎
オイルの種類		４サイクルエンジンオイル　SAE-10W30

2）ポンプオイルの交換

□ポンプオイルを点検したとき、オイルが白濁、変色している場合は交換時期に達していない場合でもポンプオイルを交換してください。

□ポンプオイルの排出を効率良く行うために、交換作業は洗浄作業終了後のポンプオイルが暖かいうちに行ってください。ポンプオイルの排出が早くできます。

□ドレンプラグの下にオイルを受ける受け皿を用意し、ドレンプラグを取り外してポンプオイルを抜いてください。

ポンプオイル交換時期	１回目	運転開始５０時間後
	２回目以降	運転開始２００時間毎
オイルの種類		４サイクルエンジンオイル　SAE-10W30

⚠ 注意

火傷

◆高温のオイルが手や体に触れると火傷する恐れがあります。オイルに直接触れないようにしてください。

◆洗浄作業終了直後は、高圧ポンプ、エンジンともに高温になっていますので、火傷に充分に注意してください。

◆オイル交換後は確実にドレンプラグとオイルキャップを締めてください。

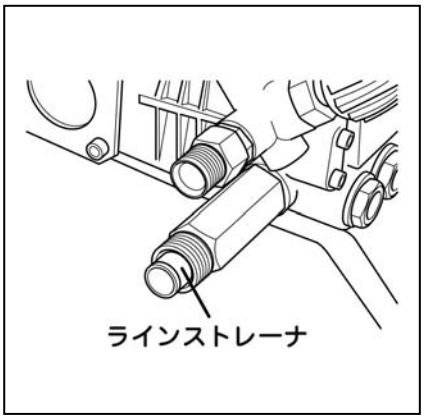
3）ラインストレーナおよびストレーナの点検

□点検、清掃時は、ラインストレーナやストレーナの金網を損傷しないよう慎重に行ってください。万一、損傷がある場合には、必ず新品と交換してください。

□長期間（１ヶ月以上）使用しなかった場合には、必ず使用前にラインストレーナ、ストレーナを点検、清掃してください。

□本機は、吸水ホースのストレーナのほかに、ポンプの吸水にラインストレーナを装備しています。これは、より細かいゴミなどの異物を取り除くためのもので、時々点検、清掃を実施してください。下記の症状が発生した場合は、ラインストレーナとストレーナを清掃してください。

・まったく吸水しない。または、断続的に吸水している。
・高圧ホースが異常に振動する。
・圧力が規定値まで上昇しない。または、安定しない。



4）デュアルガンおよび洗管ホースのノズル清掃

□デュアルガンのノズル穴が詰まった場合には、ノズル穴に細い棒などを差し込んで、回しながら詰まりを取り除いてください。ノズル穴を棒などで清掃しても詰まりが取れない場合は、お買い上げの販売店、弊社支店、営業所へ連絡をお願いします。

□ノズルは消耗品です。他の部分に異常がなくてもノズルが消耗することにより、圧力が低下することがあります。その場合にはノズルを交換してください。圧力が規定値の８５％以下になりましたら交換が必要です。

4．修理を依頼される前に

□高圧洗浄機の調子の悪いときは､修理を依頼される前に次の順序で点検を行ってください。点検された上で、なお異常のある場合や不安定な個所がありましたら、そのままの状態にしてお買い上げの販売店、弊社支店、営業所へご相談ください。

問　　題	原　　因	対　　策
吸水しない 吸水しにくい	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない	・ストレーナを完全に水中に沈める ・清水を補給する（タンク内に）
	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する ・ラインストレーナを清掃する
	・吸い込み揚程が大きすぎる	・吸い込み揚程を１．５m以下にする
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水ホースの損傷	・吸水ホースを交換する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
圧力が上がらない	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する ・ラインストレーナを清掃する
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
	・プランジャパッキンの損傷	・プランジャパッキンを交換する
	・不適切なガン、ノズルの使用	・適切なガン、ノズルを使用する
	・ノズル穴の磨耗	・ノズルを交換する
	・圧力調整の不良	・圧力調整を行う
圧力が安定しない	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない	・ストレーナを完全に水中に沈める ・清水を補給する（タンク内に）
	・ストレーナ、ラインストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する ・ラインストレーナを清掃する
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
エンジンが始動しない	・エンジンの取扱説明書を参照してください	

Asada
アサダ株式会社

本　　社　名古屋市北区上飯田西町 3-60　☎(052)911-7165

東京支店 ☎(03)3635-2511　さいたま営業所 ☎(048)653-4121
名古屋支店 ☎(052)911-7161　横浜営業所 ☎(045)441-4331
大阪支店 ☎(06)6743-3991　広島営業所 ☎(082)238-1277
札幌営業所 ☎(011)704-4391　福岡営業所 ☎(092)474-4137
仙台営業所 ☎(022)258-6811

海外事業所
アサダ・タイランド社　（バンコク）
台湾浅田股份有限公司　（台　北）
アサダ・アーロンコ マシナリー社（クアラルンプール）
上海浅田進出口有限公司　（上　海）
アサダトレーディング USA（オレゴン州・ユージン）

工　場
犬山工場　（愛知県・犬山市）
第一精工株式会社　（松阪市）
アサダ・マシナリー社（バンコク）

URL　http://www.asada.co.jp
E-mail:sales@asada.co.jp

コードNo.HD05005